



埼玉北部ニュース

第27号

平成27年6月20日

発行 全日本建設交運一般労働組合
埼玉県本部ダンプ北部支部
347-0105 埼玉県加須市騎西26-10
TEL 0480-70-2260 FAX 0480-70-2261

ダンプ組合の歩み

昭和47年結成より43年の歴史

ダンプの組合が結成され、43年が経ちました。ダンプの組合は昭和47年に滋賀ダンプ・静岡ダンプが結成されたことが始まりとなっており、埼玉の組合としては昭和48年に全日自労東京支部埼玉建設資材ダンプ分会が結成されたのが始まりです。結成は初代委員長野崎勇氏とし組合員40人からのスタートでした。その後、どのような運動をしてきたか年表を載せたいと思います。

昭和四八年九月二日
埼玉建設資材ダンプ分会結成
一二月
鶴崎商店倒産による不払い事件で造成現場に工事ストップのピケをはり元請建設会社に運賃(賃金)と闘争中の休業補償を支給させる。
第一次石油ショック・ダンプの歴史上初めて「燃料よこせ」の車両デモ
昭和四九年
館林に群馬地区班が

発足・マスコミが組合に関心をよせる
二月
労災特別加入が認可
・上尾市、蓮田市で税金相談会・運輸省交渉
四月
第二回臨時大会を熊谷市で行う。委員長に山岡武春氏(組合員一〇〇人)
九月
第三回定期大会を熊谷市で行う。(組合員一四〇人)平均年齢三二歳位
総理府交通安全対策室より「ダンプカー育成促進」の通達・埼玉県交渉で「協会と組合を平等に扱う」と回答
一二月
寄居警察署員暴行事件

昭和五〇年
三月
「ダンプ労働条件改善」で一三〇台のダンプが都心でデモ実施・埼玉・群馬・茨城・東京・静岡・滋賀・京都・兵庫の仲間が参加
八月
前田道路三郷で職場争議・ピケをはって

都・県・市の指導を求めて勝利、春日部労働基準監督署は「車持ち労働者」と認める
埼玉県に地元ダンプの優先就労を要請
第四回定期大会開催
昭和五一年
三月
鴻巣警察署員による暴行で組合員が負傷・当該警察官に一〇〇万円を賠償させる
九月
サシ枠規制強化
一〇月
第五回定期大会を行う。委員長に亀高実男氏
昭和五二年
五月
労働条件改善を掲げて都心でダンプデモ
昭和五三年
五月
思川砂利組合員全員が解雇通告を受ける
七月
思川支援・総決起でダンプデモ
思川砂利事件で茨城地方労働委員会へ救済申し立て
一二月
下館労働基準監督署が思川のダンプを「労働者」と認める

昭和五四年
四月
組合員の不当逮捕に對して警察庁第三交通機動隊員を告訴
七月
思川不当労働行為事件で第一回審問
一二月
佐野警察署員による重量暴行事件発生で抗議行動
一二月
第二石油ショックで燃料高騰
昭和五五年
一月
思川争議・茨城地方労働委員会「解雇は不当で撤回せよ」と命令。しかし、会社は中労委へ再審査を申し立て
四月
中央本部「ダンプの背番号にマル労を作れ」と政府に要請
五月
「思川砂利は地労委命令に従え」と水戸でダンプデモ
七月
建設資材ダンプ分会の名称を「関東ダンプ協議会」に改称。
埼玉北部分会行田事務所となる。他に千葉分会・埼玉西部分会・埼玉南部分会・古河分会となる。
九月
組合員が栃木県藤岡警察署員に暴行を受けたことで住民と約

千人で二日間の怒りの抗議行動
昭和五六年
他業種の労働者組織化進む(観光バス・タクシー・生コンなど)
一月
第一回関東ダンプ協議会総会。議長に亀高実男氏
七月
合材共闘会議を開く
茨城中央分会・栃木分会結成。各地で職場支部結成続く
九月
全関東で組合が中心となり、サシ枠撤廃運動に取り組み
昭和五七年
二月
「公平配車・単価引き上げ」等の四大要求決定
一二月
青梅市の奥多摩工業で単価引き下げに反対するストライキが発生
奥多摩工業支部結成。会社に団体交渉を申し入れるが拒否され争議に発展。
思川争議中央労働委員会勝利。和解成立
昭和五八年
「地元の仕事は地元で」と埼玉の運動開始。大成建設・鹿島建設の水資源行田浄水場で就労を勝ち取る

千人で二日間の怒りの抗議行動
昭和五六年
他業種の労働者組織化進む(観光バス・タクシー・生コンなど)
一月
第一回関東ダンプ協議会総会。議長に亀高実男氏
七月
合材共闘会議を開く
茨城中央分会・栃木分会結成。各地で職場支部結成続く
九月
全関東で組合が中心となり、サシ枠撤廃運動に取り組み
昭和五七年
二月
「公平配車・単価引き上げ」等の四大要求決定
一二月
青梅市の奥多摩工業で単価引き下げに反対するストライキが発生
奥多摩工業支部結成。会社に団体交渉を申し入れるが拒否され争議に発展。
思川争議中央労働委員会勝利。和解成立
昭和五八年
「地元の仕事は地元で」と埼玉の運動開始。大成建設・鹿島建設の水資源行田浄水場で就労を勝ち取る

一月
西多摩分会結成。
石橋建設支部(現埼玉北部支部東毛分会)は会社に解雇撤回させ要求前進
五月
「奥多摩工業は団交に応じろ」と抗議のダンプデモ
七月
「過積載をなくす運動方針」を発表
昭和五九年
組合員拡大の看板が各地に立つ
二月
栃木の砕石で初めて職場支部として加賀一支部ができる
五月
仕事確保運動で埼玉県副知事と交渉
九月
東京分会・房総分会結成

千人で二日間の怒りの抗議行動
昭和五六年
他業種の労働者組織化進む(観光バス・タクシー・生コンなど)
一月
第一回関東ダンプ協議会総会。議長に亀高実男氏
七月
合材共闘会議を開く
茨城中央分会・栃木分会結成。各地で職場支部結成続く
九月
全関東で組合が中心となり、サシ枠撤廃運動に取り組み
昭和五七年
二月
「公平配車・単価引き上げ」等の四大要求決定
一二月
青梅市の奥多摩工業で単価引き下げに反対するストライキが発生
奥多摩工業支部結成。会社に団体交渉を申し入れるが拒否され争議に発展。
思川争議中央労働委員会勝利。和解成立
昭和五八年
「地元の仕事は地元で」と埼玉の運動開始。大成建設・鹿島建設の水資源行田浄水場で就労を勝ち取る

昭和五九年までの運動を掲載しました。昭和六〇年以降の運動については今後、掲載予定ですが、運動を振り返ると鶴崎商店闘争に始まり警察の組合員の暴力に對する各地での抗議行動、思川闘争、奥多摩闘争、北部支部の石橋建設解雇撤回闘争、就労運動と数多くの闘いを行いながら現在の力のある組合にしてきています。

昭和五九年までの運動を掲載しました。昭和六〇年以降の運動については今後、掲載予定ですが、運動を振り返ると鶴崎商店闘争に始まり警察の組合員の暴力に對する各地での抗議行動、思川闘争、奥多摩闘争、北部支部の石橋建設解雇撤回闘争、就労運動と数多くの闘いを行いながら現在の力のある組合にしてきています。